

バイカモ移植の全国各地の取り組み

河川・海岸グループ	研究員	池田	有希
河川・海岸グループ	研究員	川田	貴章
企画グループ	サブリーダー	伊藤	将文
生態系グループ	次長	清水	俊夫

1. はじめに

バイカモ（梅花藻）は、清流中に生育するキンポウゲ科キンポウゲ属の水草で、初夏から初秋にかけてウメの花のような白い花を水中につける日本固有種です。

冷水を好む（生育適温は15℃で、25℃を超えると生育できなくなる）ため、北日本では水路や河川などに広く分布しますが、西日本などでは上流や湧き水のある地域に分布域が限られています。

そのため、都道府県別レッドデータブックで絶滅危惧種に指定されている場合も多くあります。



写真-1 水中で開花するミシマバイカモ
(柿田川、静岡県)

近年、バイカモは全国各地でその生育地を減少させてつづいています。生育地の減少の理由は、河道改修、外来種による被圧、生育地の水質悪化等様々な要因によるものと考えられています。

そのため、ヒルゼンバイカモ、ミシマバイカモなどのバイカモ類について、各地で移植による種の保全が実施されています。

例えば、狩野川水系柿田川では外来植物オオカワヂシャが分布域を拡大し、地域特有のミシマバイカモが被圧され、何ら人為的対策を講じない場合にはバイカモの生育が危惧される状況にあります。

本稿では、全国各地で実施されているバイカモの移植の取り組みについて文献調査し、それらのうち、2つの事例について、移植を行った団体関係者へのヒアリングや現地視察等により、効果的な移植手法、維持管理について調査した結果を報告するものです。

2. 五十公野梅花藻研究室での取り組み

1つ目は、新潟県新発田市五十公野（いじみの）地域において、「五十公野梅花藻研究室」が実施している取り組みについて紹介します。



図-1 位置図 (新潟県新発田市五十公野地区)

新発田市五十公野地域では、都市化による農村部の混住化と開発が進行しており、農業生産力の向上と経営規模拡大による農業の安定経営を図るため、平成15年度から農業農村整備（ほ場整備）を実施しています。

整備に伴い改修予定の天辻川では、新潟県の絶滅危惧Ⅱ類に指定されている「バイカモ」の生育が確認されたことから、この生育環境の確保が喫緊の課題となっていました。

このような背景から、整備の支障となるバイカモを保全・維持するため、移植・育成を行うこととなりました。



写真-2 天辻川の現況